

6月1日は「電波の日」

昭和25年6月1日に電波法、放送法及び電波監理委員会設置法が施行され、それまで政府専掌であった電波利用が広く国民に開放されたことを記念して「電波の日」が定められました。

総務省では、この電波の日の前後に、「情報通信月間」を定め、情報通信の普及・振興と電波利用の発展を図る取組みを集中的に実施することとしております。

また、これらを記念して、6月1日(月)に、「平成21年度電波の日・情報通信月間記念式典」を開催し、情報通信及び電波利用の発展に功績のあった方々を表彰いたしました。

北海道内の情報通信月間行事の詳細

<http://www.soumu.go.jp/soutsu/hokkaido/2009/0514.htm>

担当：情報通信部 情報通信振興課
(内線4717)

- 情報通信月間 - 期間中に各種セミナーを開催

今年度は「デジタルひろがる、暮らしかがやく」をテーマに、北海道内ではユビキタス・ネットワークやICTに関する各種セミナー、体験・イベントなど様々な行事が開催されました。

「電気通信事業分野における個人情報保護セミナー」

◇開催：平成21年5月15日(金)

◇内容：「電気通信事業者における個人情報保護への取組みと課題」
(講師：桑子 博行 氏
認定個人情報保護団体・業務企画委員長
(財団法人日本データ通信協会電気通信個人情報保護推進センター))

電気通信事業者の個人情報管理・漏えいの現状や今後の各事業者における対応・対策について説明がありました。



担当：情報通信部 電気通信事業課
(内線4703)

「北海道地方非常通信協議会」 定期総会記念講演会

◇開催：平成21年5月25日(月)

◇内容：「北海道の巨大地震とその防災」
(講師：谷岡 勇市郎 氏
北海道大学理学研究院附属地震火山研究観測センター 教授)

北海道周辺でこれまでに発生した巨大地震の状況と、地震や津波のメカニズム等について解説があり、最新の地震津波観測研究が災害対策に役立てられている事例の紹介がありました。



担当：無線通信部 陸上課
(内線4651)

平成21年度「電波の日・情報通信月間記念式典」

電波利用及び情報通信の発展における功績を表彰

各被表彰者の功績については下記URLに掲載してあります。

<http://www.soumu.go.jp/soutsu/hokkaido/2009/0601.htm>

第59回「電波の日」北海道総合通信局長表彰

(個人)

榛澤 成尚 様

(元 電波適正利用推進員

社団法人全国陸上無線協会北海道支部役員及び北見分会長
有限会社道東信和代表取締役)

(団体)

学校法人北海道尚志学園 様

財団法人電気通信振興会 様



平成21年度「情報通信月間」北海道総合通信局長表彰

(個人)

伊藤 直哉 様

(北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院准教授)

(団体)

島牧村 様

北海道高等学校長協会商業部会 様

北海道総合政策部地域づくり支援局移住交流グループ 様



式辞を述べる当局局長 大矢 浩

北海道電波協力会長表彰

(本式典は北海道電波協力会との共催により開催しました。)

(個人)

及川 薫 様 (北菱テクニカル株式会社代表取締役)

東條 勉 様

(社団法人紋別漁業無線協会紋別漁業無線局 局長、
北海道漁業無線連合会 副会長、漁業無線局長会 会長)



表彰状授与の様子



北海道電波協力会から情報通信関連機器の贈呈

(本式典は北海道電波協力会との共催により開催しました。)

社会福祉法人 室蘭福祉事業協会 あいらん 様 (室蘭市) 地上デジタルテレビ受信機

社会福祉法人 静内ペテカリ しずまない心の杜 様 (新ひだか町) 地デジ対応パーソナルコンピュータ

平成21年度「電波の日・情報通信月間」記念中央式典において、北海道内関係者が受賞されました。

「電波の日」総務大臣表彰 (北海道内関係分)

(団体) 札幌市 様

「情報通信月間」総務大臣表彰 (北海道内関係分)

(個人) 吉田 晃敏 様 (旭川医科大学学長・遠隔医療センター長)

担当: 総務部 総務課 企画広報室
(内線4685)

周知啓発活動や不法無線局の取締りを重点実施

「電波利用環境保護周知啓発強化期間」 6月1日～10日

- ◇今年度のキャッチフレーズ
「電波のルールを守りましょう」「みんなで守る電波のルール」
- ◇主な活動内容
 - ・不法無線局の取締り強化
 - ・テレビCM放映、新聞への広告掲載
 - ・交通機関へのポスター掲示 等
- ◇取締り強化状況
 - ・6月3日、石狩湾新港で、第一管区海上保安本部小樽海上保安部と共同取締りを実施し、その模様はテレビニュースでも放映されました。

◇「電波利用環境保護周知啓発強化期間」について
<http://www.soumu.go.jp/soutsu/hokkaido/2009/0521b.htm>



◇不法無線局開設者1名を電波法違反容疑で摘発 - 小樽海上保安部と共同取締りを実施 -
<http://www.soumu.go.jp/soutsu/hokkaido/2009/0603.htm>



担当：電波監理部 電波利用環境課
(内線4743)

「地デジ」完全移行まであと800日の日に受信相談コーナーを開設

デジサポ道央と共催で地デジ広報活動を実施しました。

* デジサポ道央：総務省北海道中央テレビ受信者支援センター

- ◇開催日・場所
平成21年5月15日(金) ←「地デジ」完全移行の2011年(平成23年)7月24日まで、あと800日の日
アスティ45 地下1階(札幌市中央区北4条西5丁目)

- ◇イベント概要
 - ・相談コーナーの設置
 - ・「地デジ」対応テレビ、チューナーの展示
 - ・広報物の配布 → 下記の「配布資料」URLからダウンロードできます。

- ◇相談コーナーに寄せられた質問
「ビル陰の共聴施設で視聴しているが、デジタル化改修に向けて、マンション側との話し合いをどのように進めたらよいのか?」「簡易チューナーの価格は?」など → 下記「デジサポ」のホームページを参照

- ◇配布資料 「地デジ」関連パンフレット
<http://www.soumu.go.jp/soutsu/hokkaido/chideji/chideji09.htm>

- ・『地上デジタルテレビ早わかりガイド』
- ・『共同受信施設での受信方法』 等

- ◇総務省テレビ受信者支援センター(愛称:デジサポ)

<http://www.digisuppo.jp/>

地上デジタル放送の周知・広報や受信相談を行うために全国52カ所に設置され、北海道は札幌・旭川・函館・釧路の4カ所に事務所があります。上記デジサポのホームページには『地域ごとの地デジ説明会』や「地デジ」を視聴するための『地デジ診断』など役立つ情報が多数掲載されています。



担当：デジタル放送受信者支援室
(内線4667)

- ◇「地デジ」関連の当局報道発表資料一覧

<http://www.soumu.go.jp/soutsu/hokkaido/chideji/chideji10.htm>

電波利用料 コンビニ納付が可能となりました

電波利用料は、これまでの金融機関の窓口納付、口座振替、電子納付に加えて、平成21年4月20日から次のコンビニエンスストアでも納付が可能になりました。コンビニ納付にはバーコード付の納入告知書等を用いることが必要となりますので、詳細は下記サイトをご覧ください。

◇納付方法の詳細 <http://www.tele.soumu.go.jp/i/fees/payment/proc.htm#conbini>

【電波利用料の納付が可能なコンビニエンスストア一覧（順不同）】

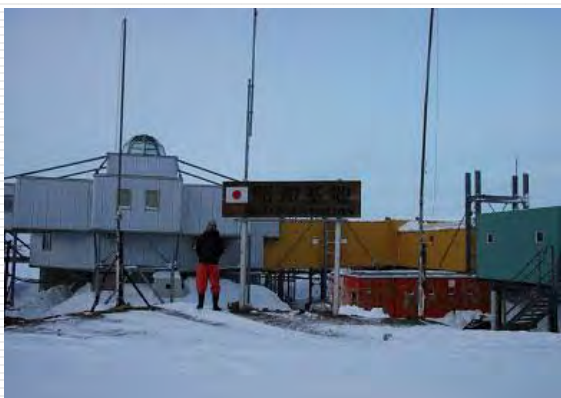
am/pm	エブリワン	くらしハウス	ココストア
コミュニティ・ストア	サークルK	サンクス	スリーエイト
スリーエフ	生活彩家	セイコーマート	セーブオン
セブンイレブン	デイリーヤマザキ	ファミリーマート	ポプラ
ミニストップ	ヤマザキデイリーストアー	RICマート	ローソン

MMK（マルチメディアキオスク）設置店

担当：総務部 財務課（内線4626）

南極昭和基地から（その2） 第50次南極地域観測隊 畑中浩二

日本の南極地域観測事業には総務省も参画しており、当局出身の畑中隊員が参加しています。今回は畑中隊員による南極レポートの第2回目をお届けします。



ここ南極昭和基地では短い秋が終わり冬になりました。今回は私の所属する第五十次隊について紹介します。

第五十次隊は基地の維持に最低限必要な設営系隊員及び少数精鋭の観測隊員からなり、運搬貨物も極力少なくした「特殊な隊」です。南極観測が開始された昭和32年から52年目となりますが、南極観測船「しらせ」が現役を引退し、南極まで乗っていく観測船が無いため、オーストラリアの南極局の観測船「オーロラオーストラリス」に乗船し、フリーマントルより出航しました。この観測船は8,000トンと「しらせ」と比較して小さく、砕氷能力も大きくありません。船の輸送能力も大きくないため、日本から持ち込む物資も最低限の750トン程度でした。また、船のスタッフは全員オーストラリアの方で会話は英語となります。

昨年の12月30日に乗船してからは、少しのんびりできておりました。しかし、船と昭和基地との間で一日一回の定時交信をするためイリジウム、インマルサット、HF無線機器を使用し、これらの使用方法をマスターするため忙しい日々が続きました。さらに、オーストラリア船のスタッフの中には「オージーなまり」の方も多くいて、英語を聞き取れなくて会話が成立しないなどのハプニングなどもありました。今回この「オーロラオーストラリス」で暴風圏を越えて南極に到着しましたが、幸いなことに天候に恵まれ、予想より船の揺れは激しくありませんでした。南極観測隊へ「航海の女神」が微笑んでくれたのかも知れません。

